

能、態度に関して十五項目ほどあつたが研究にかかわりの深い五項目は資料

### (3) 検証授業計画

(4) 研究を推進し、その結果を正しく評価し判断するためには、数少ない実践では信頼できないので、資料 2 のとおり、年度初めから、読解並びに作文教材を選択し、仮説に基づく書くことの内容を明確にしておいた。これら仮説に基づく授業を行い前述した児童側並びに教師側双方の観点で評価していく。  
検査授業に臨む前に

本研究の主題、仮説に即するため次の四点に留意して授業に臨んできた  
① 書くことを考慮した年間指導計画を持つ

国語科はいすれの教材 指定内容  
の学習であつても、それ自体ではその  
学習のねらいを達成することは難しい  
つまり、書くことの指導であつても  
他の書くこと及び読むことの教材との  
関連なしには考えられない。そこで、  
全教材について、書くことにかかわり  
合う内容を整理し、明確にした。

② 書くことの具体的指導計画を持つ  
特に作文教材においては、一単位時間ごとに学習のねらいや内容・活動、指導方法を明確にして、学習に役立てる。つまり、あらゆる書くことの教材について、指導内容を精選しておく。

③ 作文ノートを作り習慣化を図る

四月の教材「作文のノート」の学習で作られた作文帳を継続使用し、取材

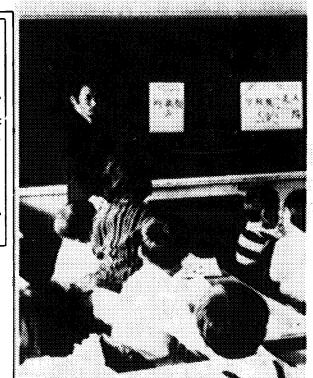
メモ、構想メモ、作文、さらに推敲し、  
清書した作文などをつづり、次からの  
作文活動に生かすようにする。

(5) 検証授業の実践と考察

全部の授業を述べる細かいもので、二つの事例を示す。資料3-1は、中内容の読解に書くことの重要な内容である文章構成を結びつけて指導した例である。ほとんどの者は、課題解決する中で論理的な文章構成に気づき、接続語の働きを知った。また、視写を通して、事実関係を説明する文章記述の一方法を理解したり、意識せずに書き慣れるための経験を積ませるのに役立つた。

資料3-12は構成指導の中における語彙指導の例である。課題「うさぎの作文は、どんなじゅんじよで書いたらよいだろうか。」に対し、**すがた形**との順序で良いという結論が出されたこと。その**くらし**の語句を深める中で、「生活すること。生活。生きること。」などとくらし動いているようすと思つたこと。H子は、この学習の意味を理解した。

資料3-1検証授業例（読解教材の場合）・「たんぽぽのちえ」 5/12時



真剣な授業

木は上へ作業指導いやや  
残つてゐるようでもある  
のちえ」以後は、普段の  
成果が現れてきていら。

資料4-12は仮説に基づく学習の結果、何がどのように変容したかを児童側の評定尺度によりまとめたものである。総度数百八十五のうち百四十一（七

資料3-2 検証授業例（作文教材の場合・生きもののこと 5/12時）

過程	基本発問(指導内容)	反応(学習活動)
課題は握る		
話し合う	○ところで、ここにつかわれている【くらし】とは、どういうことだろうね。 【くらし】は、生活すること、生きているようすととらえさせると、くらしの意味が分かるだけでなく、書くこともたくさんあることに気づかせることができる。	C全 (あらためて問われ、分からぬ様子、考えこむ。だれかが「生活」とつぶやく。) C15 くらしへの。えさを食べたりあそんだり、あなたのなかでねたりすること。 C16 (あつ、そうか)くらしへは、いろいろして生きていることです。だから動きと同じよ。だから動きと同じよ。 C17 くらしへいうのは、動いているようすと同じだから動きにまとめて書いていい。
仮説「書く中の語彙指導」		
書く	中身の大体や順序を考えて、うさぎのことを、短い作文に書きましょう。	Hさんの短い作文の抜粋 うさぎは、くわくわふわした毛でつままれて…。うさぎはどんなくらし方をしているのか…。 野うさぎは、かいうさぎより、ずっときびしい生活をしていることが分りました。それは、食べもの…。

が、研究主題及び仮説にかかるものだけ取り上げた。この結果から、一単位時間内に位置づけた書くことの内容